

令和2年度
福岡県学力調査
調査結果報告書
〈概要版〉

国語

算数・数学

子どもを信じて

～日常的・組織的な「授業改善」のために～



福岡県教育委員会

令和2年度 福岡県学力調査結果

I 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各市町村（学校組合）教育委員会、学校が自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。
- (3) 各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年（指定都市を除く。）

- 公立の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
 - 公立の中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
- ※ 当該学年における当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

3 調査の教科

- 小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年
国語、算数（1教科45分で実施）
- 中学校第1・2学年、義務教育学校後期課程第1・2学年、中等教育学校前期課程第1・2学年、特別支援学校中学部第1・2学年
国語、数学（1教科50分で実施）

4 調査の内容

それぞれの学年・教科に関して、以下の「主として『知識』に関する問題」及び「主として『活用』に関する問題」を一体的に問う。

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

5 実施期間

令和2年9月1日（火）～9月25日（金） ※各学校で任意の1日を実施日とする。
※ 本年度は、新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の影響を踏まえて実施時期等を変更

6 調査を実施した県内公立学校・児童生徒数

○ 小学校

学年	学校数 (校)	児童数 (人)	
		国語	算数
第5学年	451	23,121	23,139

○ 中学校

学年	学校数 (校)	生徒数 (人)	
		国語	数学
第1学年	210	22,524	22,534
第2学年	211	21,587	21,577

※ 学校数は、分校を含む。

7 調査問題の内容

○ 調査範囲等

- 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
- 各教科の問題は、主として「知識」に関する問題及び主として「活用」に関する問題を一体的に問う。問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
主として「知識」に関する問題	9	5	9	5	10	5
主として「活用」に関する問題	9	12	9	11	10	12
問題数合計	18	17	18	16	20	17

○ 設問 (解答) 形式

「選択式」、「短答式」及び「記述式」の3形式とする。

* 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。

* 短答式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。

* 記述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校第5学年		中学校第1学年		中学校第2学年	
	国語	算数	国語	数学	国語	数学
選択式	6	5	7	3	12	2
短答式	9	8	8	9	3	11
記述式	3	4	3	4	5	4
問題数合計	18	17	18	16	20	17

Ⅱ 調査結果の概要

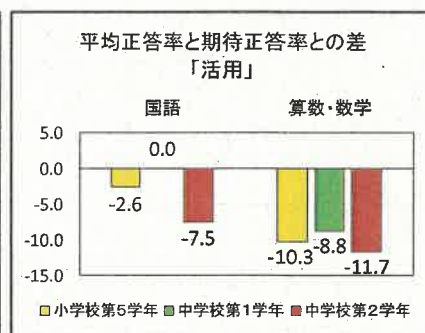
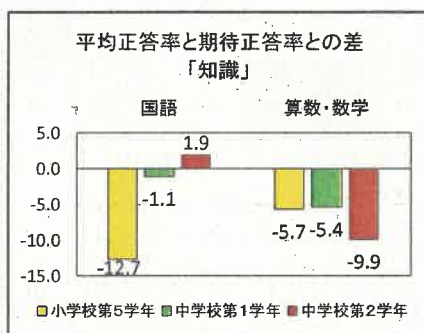
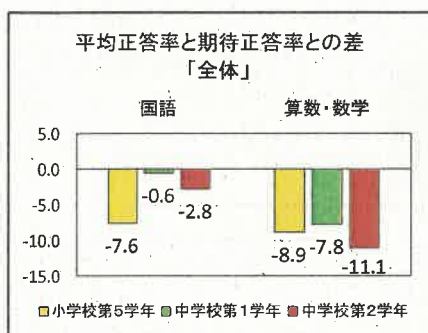
1 平均正答率、平均正答率と期待正答率との差

			全体			知識			活用		
			平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)	平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)	平均正答率(A)	期待正答率(B)	期待正答率との差(A-B)
国語	小学校	第5学年	54.6	62.2	-7.6	54.0	66.7	-12.7	55.2	57.8	-2.6
		中学校	第1学年	61.1	61.7	-0.6	66.1	67.2	-1.1	56.1	56.1
	第2学年		58.2	61.0	-2.8	70.4	68.5	1.9	46.0	53.5	-7.5
算数 数学	小学校	第5学年	55.2	64.1	-8.9	65.3	71.0	-5.7	51.0	61.3	-10.3
		中学校	第1学年	57.8	65.6	-7.8	70.6	76.0	-5.4	52.1	60.9
	第2学年		47.7	58.8	-11.1	60.1	70.0	-9.9	42.5	54.2	-11.7

※ 桃色のセルは期待正答率以上、薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値の百分率。

期待正答率：設問別の正答することが想定される児童生徒の割合を、全設問について平均した値の百分率。



○ 期待正答率以上の学年・教科

【中学校第1学年 国語】：「主として『活用』に関する問題」において、期待正答率と同値であった。

【中学校第2学年 国語】：「主として『知識』に関する問題」において、期待正答率を1.9ポイント上回った。

● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・教科

【小学校第5学年 国語】：「主として『知識』に関する問題」において、期待正答率を12.7ポイント下回った。

【小学校第5学年 算数】：「主として『活用』に関する問題」において、期待正答率を10.3ポイント下回った。

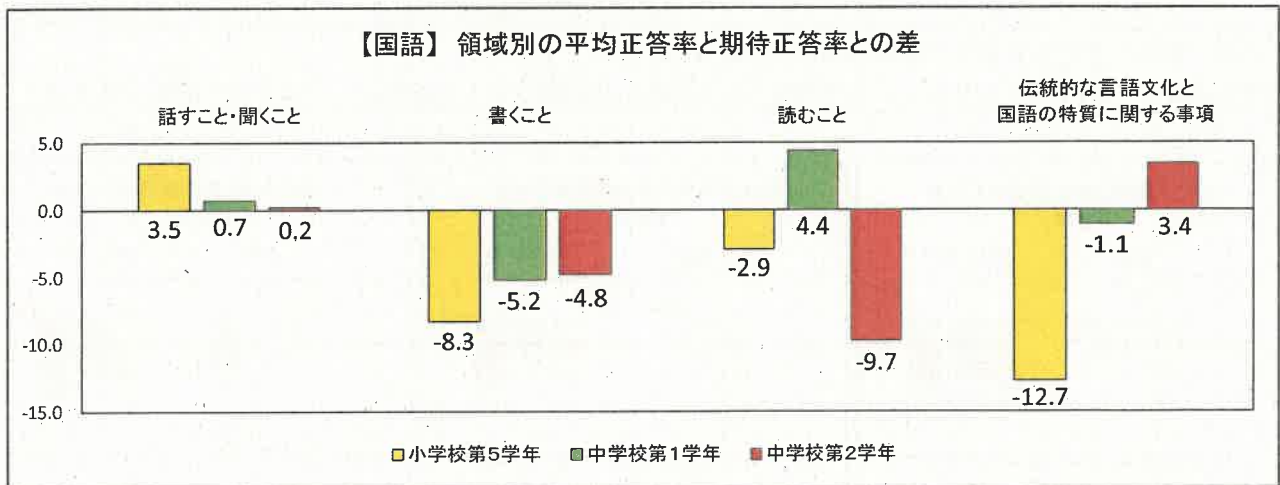
【中学校第2学年 数学】：「全体」において、期待正答率を11.1ポイント、「主として『活用』に関する問題」において、11.7ポイント下回った。

2 領域別の平均正答率、平均正答率と期待正答率との差

【国語】

		話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		
		平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
小学校	第5学年	70.2	66.7	3.5	48.4	56.7	-8.3	47.1	50.0	-2.9	54.0	66.7	-12.7
中学校	第1学年	54.0	53.3	0.7	54.8	60.0	-5.2	59.4	55.0	4.4	66.1	67.2	-1.1
	第2学年	52.7	52.5	0.2	56.5	61.3	-4.8	42.8	52.5	-9.7	78.4	75.0	3.4

※ 桃色のセルは期待正答率以上、薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



○ 期待正答率以上の学年・領域

【小学校第5学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を3.5ポイント上回った。

【中学校第1学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を0.7ポイント、「読むこと」において4.4ポイント上回った。

【中学校第2学年】：「話すこと・聞くこと」において、期待正答率を0.2ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、3.4ポイント上回った。

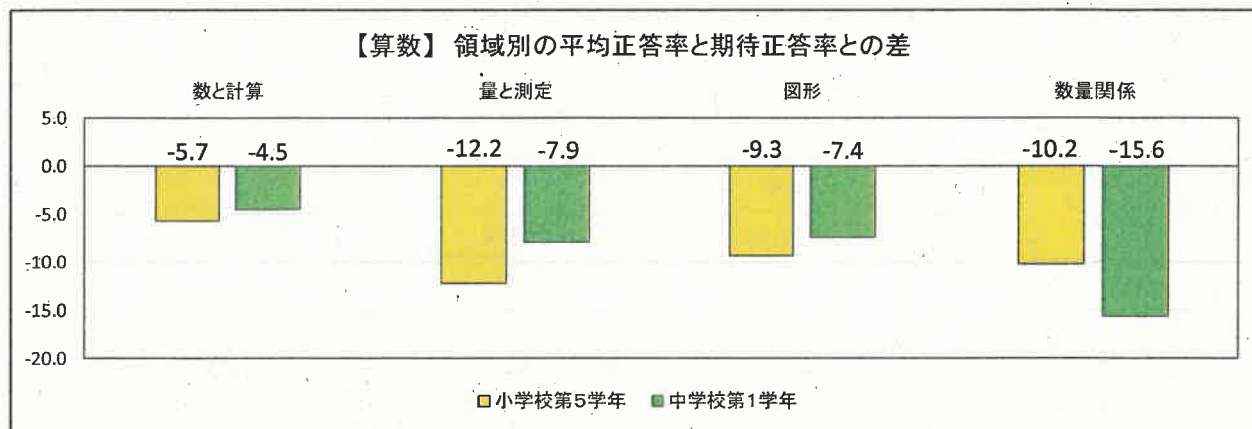
● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・領域

【小学校第5学年】：「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、期待正答率を12.7ポイント下回った。

【算数】(中学校第1学年の出題範囲は小学校の学習内容のため、小学校の領域で示す)

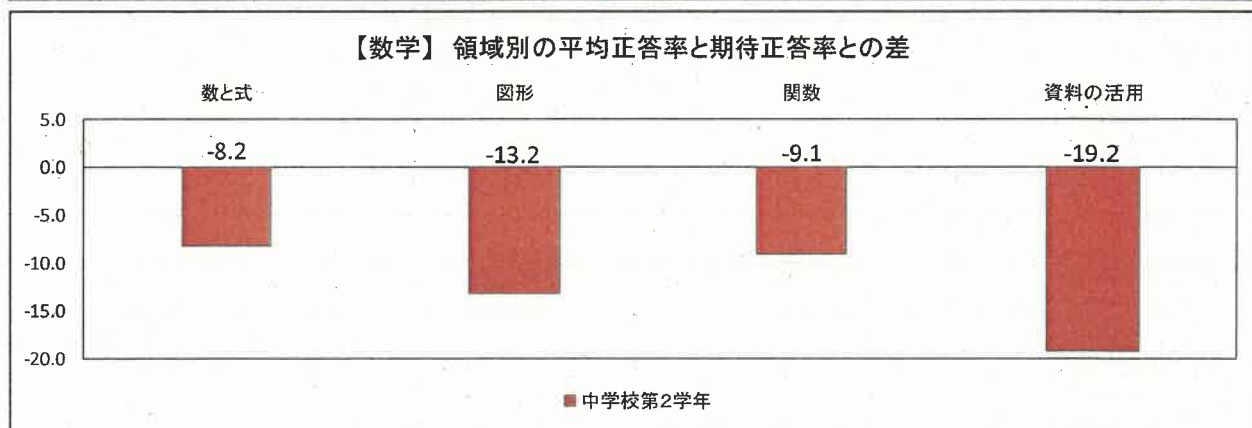
		数と計算			量と測定			図形			数量関係		
		平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差
小学校	第5学年	65.3	71.0	-5.7	32.8	45.0	-12.2	63.2	72.5	-9.3	49.0	59.2	-10.2
中学校	第1学年	66.9	71.4	-4.5	47.1	55.0	-7.9	69.3	76.7	-7.4	36.1	51.7	-15.6

※ 薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



【数学】

中学校		数と式			図形			関数			資料の活用		
		平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差	平均 正答率	期待 正答率	期待正答率 との差
中学校	第2学年	56.2	64.4	-8.2	48.5	61.7	-13.2	44.2	53.3	-9.1	27.5	46.7	-19.2



● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・領域

- 【小学校第5学年】: 「量と測定」において、期待正答率を12.2ポイント、「数量関係」において10.2ポイント下回った。
- 【中学校第1学年】: 「数量関係」において、期待正答率を15.6ポイント下回った。
- 【中学校第2学年】: 「図形」において、期待正答率を13.2ポイント、「資料の活用」において、19.2ポイント下回った。

3 令和元年度3学期に学習指導が計画されていた内容に関する問題の結果

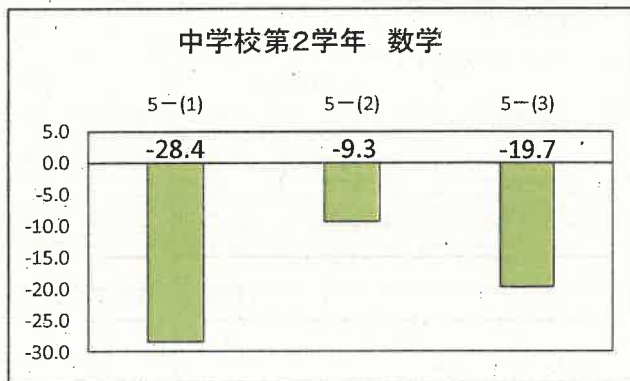
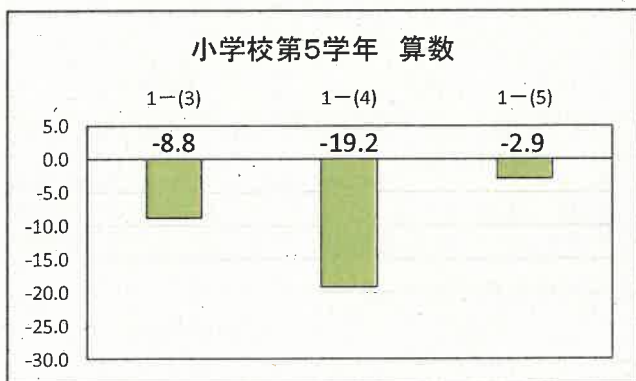
【小学校第5学年 算数】

問題の内容	問題番号	出題のねらい	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
整数・小数・分数	1	(3) 小数×整数の計算ができる。	61.2	70.0	-8.8
		(4) 小数÷整数の計算ができる。	40.8	60.0	-19.2
		(5) 帯分数－真分数＝真分数の計算ができる。	82.1	85.0	-2.9

【中学校第2学年 数学】

問題の内容	問題番号	出題のねらい	平均正答率	期待正答率	期待正答率との差
資料の散らばりと代表値	5	(1) 度数分布表から最頻値を読み取ることができる。	21.6	50.0	-28.4
		(2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	30.7	40.0	-9.3
		(3) 相対度数の必要性和意味を理解している。	30.3	50.0	-19.7

※ 薄い水色のセルは期待正答率未満、濃い水色のセルは期待正答率を10ポイント以上下回るもの。



● 期待正答率を10ポイント以上下回る学年・問題

- 小学校第5学年算数では、該当する3問のうち、「小数÷整数の計算」において、期待正答率を19.2ポイント下回った。
- 中学校第2学年数学では、該当する3問のうち、「度数分布表から最頻値の読み取り」において、期待正答率を28.4ポイント、「相対度数の必要性和意味」において19.7ポイント下回った。

Ⅲ 令和２年度福岡県学力調査問題を活用した授業改善のための指導資料

本県学力調査の問題は、全国学力・学習状況調査と同様に、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力等を具体的に示すメッセージを盛り込んで作成しています。

このことを踏まえ、本年度標記調査の特徴的な問題の解説・授業改善のポイント等をまとめた資料を作成しました。

調査問題や本資料について、例えば、日々の授業や教材研究、各学校での研修会や研究授業、各教育委員会等での研修会の資料等、各教育委員会や学校の判断で、児童生徒の教育指導の改善・充実に資するよう、有効に活用いただければ幸いです。

※ 本資料は、以下のサイトにも掲載しています。

【掲載サイト】

- 義務教育課各種資料のページ (<http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>)

1 の三

話の中心に気を付けて聞き、質問をすることができるかどうかをみる問題

<関連する過去の問題>

H30全国B 1 三：話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる問題

中川さんの学級では、「一年生をおかえる会」をどのようなめあてで行えばよいかについて話し合いました。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

(略)

大野(三ばん) わたしたちは「一年生に慣れてもらう」というめあてを提案します。不安をもっている一年生に、少しでも早く学校に慣れてほしいからです。

(略)

小林(三ばん) 二はんに質問です。この学校を知ってもらうというのには、行事などを知ってもらうのか、学校のことには何かがあるのかなどを知ってもらうのか、どちらでしようか。

西田(二はん) はい。その両方です。それ以外にも、学校での一日の生活など、学校についていろいろなことを知ってもらいたいと考えています。

中川(一ばん)

三ばんに質問です。

三ばんは、一年生に対して、何に慣れてほしいか、何に慣れてほしくないか、小学校生活に慣れてほしいのか、それともわたしたち上級生に慣れてほしいのか、どちらだろう。



中川さん

三 中川さんは、「話し合いの様子の一部」の三ばんの提案を聞いて、次のようなぎもんをもちました。

そこで、「話し合いの様子の一部」の□で、三ばんの提案に対して質問をしました。あなたが中川さんなら、どのように話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

- 「……」の小林さんの発言のしかたを参考にして、ぎもんに思ったことをたずねる文を書くこと。
- 相手に話すときにふさわしい、ていねいな言葉を使って書くこと。
- 四十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。

正答の導き方

〔1〕問題文と<条件>、「話し合いの様子の一部」を読んで問われていることを確認する。

- ① 問題文の――部と「中川さんの疑問」から、三ばんの提案を具体的に知る質問をする必要がある。
- ② <条件>の――部から、小林さんの発言のしかたを参考にする。

〔2〕「中川さんのぎもん」をもとに、小林さんの発言のしかたを参考にして質問を考える。

- ① 中川さんは、三ばんの「一年生に慣れてもらう」という提案に対して「小学校生活に慣れてほしい(考えA)」と「わたしたち上級生に慣れてほしい(考えB)」のどちらの考えなのか、疑問をもっている。
- ② 小林さんも二はんの提案に対して、どちらの考えなのかを確かめる質問をしている。その際、「…(提案)というのには、…(考えA)のか、…(考えB)のか、どちらでしようか。」という発言のしかたを用いている。

〔3〕<条件>の「ふさわしい、ていねいな言葉」「字数制限」に合わせて書く。

「三ばんに質問です。」に続けて、敬体で、字数制限に合わせて書く。

必要な知識・技能

- ・話の中心に気を付けて聞く。
- ・聞いた事柄を基に確かめたい点を質問する。

【正答例】

一年生に慣れてもらうというのには、小学校生活に慣れてもらうのか、わたしたち上級生に慣れてもらうのか、どちらでしようか。(58字)

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) 一年生に対して、何に慣れてほしいと思っているのですか。もう少し詳しく教えてください。(43字)

(誤答例2) 一年生に慣れてもらうというのは、一年生に対して、小学校生活に慣れてほしいのですか。(41字)

- ◆ 小林さんの発言のしかたを参考にしていない。
※ (誤答例2) については、一部分のみしか質問していない。

(誤答例3) 一年生に慣れてもらうというのは、小学校生活に慣れてもらうのと、わたしたち上級生に慣れてもらうのとどちらか。(53字)

- ◆ <条件> 「小林さんの発言のしかたを参考にして」「ていねいな言葉を使って」を受けて敬体を用いる必要があるが、常体を用いている。

授業改善のポイント

- 「話し合うこと」の指導では、目的や進め方を確認して、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができるように指導することが大切です。



短冊を使って、考えを整理してみましょう。

それぞれの考えを比べて、似ているところはどこですか。

◎ 一年生にとっての会の意味を考えている

一年生にどうやってほしいか

3ばん	2はん	1ばん	4はん
一年生に慣れてもらう	一年生にこの学校を知ってもらう	一年生に楽しんでもらう	一年生と仲よくなる

一年生をむかえる会のめあてを決めよう。
それぞれのほんの考えをくらべて、よいところを出し合おう。



一ばんから三ばんまでは、一年生にどうやってほしいかを考えています。このように、一年生にとってどんな意味がある会にするかを考えるのは、とても大切なことだと思います。



「話し合うこと」の指導において互いの意見を比較することは、それぞれの意見の共通点や相違点から、その意見のよさを見出すことにもつながります。

- 必要なことを記録したり質問したりしながら聞く活動を設定することは、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ上で有効です。



どのようなめあてで行いたいのか提案してもらいました。その内容についてメモしたことをもとに、分からない点や確かめたい点を整理しましょう。

確かめたい点

小学校生活
わたしたち上級生

(ぎもん)
○ 何に慣れてほしいのか

【三ばん】
○ 一年生に慣れてもらう
一年生が不安をもっている
早く学校に慣れてほしい

【メモ】

何に慣れてほしいのかを質問して確かめたいです。



話合いの展開に沿って発言したり、質問したりすることができるようにするためにも、記録したことをもとに、考えを整理する活動を設定することも有効です。

4の(3)

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフの何に着目して書かれているのかを説明することができるかどうかをみる問題

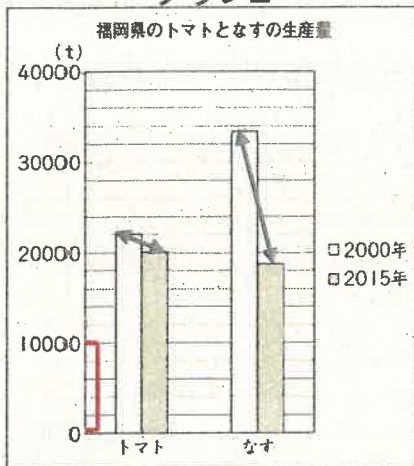
<関連する過去の問題>

H30全国B3 (1)：日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察し、表現する問題

けんたろうさんは、福岡県のトマトの生産量について調べました。そこで、なつきさんが調べたなすの生産量と、けんたろうさんが調べたトマトの生産量を下のグラフ2に表しました。

けんたろうさんは、グラフからわかること2つをメモに書きました。

グラフ2



メモ1

- ・ トマト
- … 約20000 t
- ・ なす
- … 約19000 t

メモ2

- ・ トマト
- … 約2000 t
- ・ なす
- … 約15000 t

なつきさんとゆうとさんは、けんたろうさんが書いたメモについて話し合っています。



なつき

メモ1を見ると、トマトの量のほうが多いです。でも、メモ2を見ると、なすの量のほうが多いです。



ゆうと

どちらもグラフ2について書いているのに、メモ1では、トマトの量のほうが多く、メモ2では、なすの量のほうが多いのは、なぜですか。



けんたろう

メモ1とメモ2は、それぞれちがうことについて書いているからです。

(3) けんたろうさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれちがうことについて書かれています。

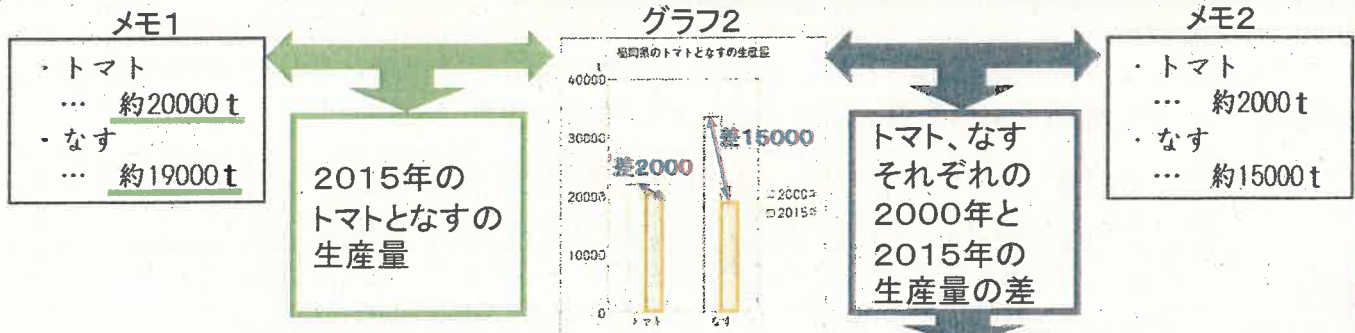
メモ1とメモ2は、それぞれグラフの何について書かれているかを、言葉や数を使って書きましょう。

正答の導き方

〔1〕 グラフ2で示されている事柄や数量を確認する。

- ① グラフ2は2000年と2015年の「福岡県のトマトとなすの生産量」を表している。
- ② 1目盛り (10000÷5) は、2000 tである。
- ③ トマトの2000年の生産量は約22000 tで、2015年の生産量は約20000 tである。
- ④ なすの2000年の生産量は約34000 tで、2015年の生産量は約19000 tである。

〔2〕 メモ1、メモ2が、グラフ2で示されている事柄や数量のどこに値するのか読み取る。



〔3〕 〔2〕で調べて分かったことをもとに、2つのメモについて、言葉や数を用いて説明する。

トマト 22000 - 20000 = 2000
なす 34000 - 19000 = 15000

【正答例】

メモ1は、2015年のなすとトマトの生産量について書かれています。

メモ2は、2000年と2015年の生産量の差について書かれています。

必要な知識・技能

- ・ グラフが示す数量の大きさを正しく読み取る。
- ・ 項目間の関係 (大小や差) を読み取る。

調査問題を活用した授業改善のための指導資料

誤答例とその原因

(誤答例1) メモ1は2000年の生産量でメモ2は2015年の生産量です。

- ◆ それぞれのメモに示されている数量が、グラフのどの部分に着目したものなのかを捉えることができていない。

(誤答例2) メモ1は2015年のトマトとなすの生産量について書かれています。
メモ2については記述することができていない。

- ◆ メモ1について示された数量が、2015年の生産量であることは捉えることができているが、メモ2について示された数量が、2000年と2015年の生産量の差であることを捉えることはできていない。

授業改善のポイント

- 1つの観点だけでグラフを読み取るのではなく、**和や差などの複数の観点に着目して、**グラフを読み取ることができるようにすることが大切です。



このグラフで、分かることは何ですか。



2000年と2015年のトマトとなすの生産量が分かります。



1目盛りは2000tなので、
2000年のトマトの生産量は、約22000t、
2015年のトマトの生産量は、約20000tということが分かります。

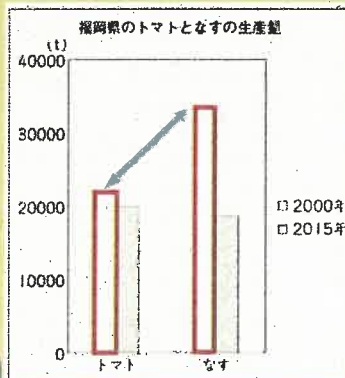


同じように、
2000年のなすの生産量は、約34000t、
2015年のなすの生産量は、約19000tということが分かるね。



それでは、【メモA】【メモB】は何について書かれたものでしょうか。
グラフのどこを見ればわかりますか。

【メモA】
・ 2000年
… 約12000t
・ 2015年
… 約1000t



【メモB】
・ 2000年
… 約56000t
・ 2015年
… 約39000t



【メモA】は、トマトとなすの生産量のどちらでもないよ。



2000年のトマトとなすの生産量の差を見てみよう。
 $34000 - 22000 = 12000$ で、【メモA】の2000年と同じになったよ。



【メモB】の2000年の約56000tと2015年の約39000tはどちらもグラフにはない量だね。

2000年のトマトとなすの生産量をたしてみよう。
 $22000 + 34000 = 56000$ で、【メモB】の2000年の量と同じだね。
2015年も同じように計算してみよう。



グラフに表してある数量だけを読み取る活動ではなく、**グラフに表されていない和や差で数量を捉えるといった活動を仕組む**ことが、複数の観点でグラフを読み取ることができるようになることにつながります。

「未来への一步」と「動画コンテンツ」を活用した 学力向上の取組

I 「未来への一步」を活用した学力向上の取組

1 取組の概要

- (1) 「目標設定」「挑む活動（習熟に向けた『未来への一步』と動画コンテンツの繰り返しの活用）」「振り返る活動」を位置付け、非認知的能力の向上による効果的な取組を計画し、実践する。
- (2) 「未来への一步」に係る個人の学習到達度、目標、振り返り等を記入するための「ステップアップシート（義務教育課作成）」を活用する。
- (3) 取組の成果等を検証するために、取組の前後に、児童生徒に対して「定着状況診断テスト」「児童生徒質問紙調査」、学校に対して「学校質問紙調査」を実施し、変容を見取る。

2 「未来への一步」の活用方法

「未来への一步」は、算数「数と計算」、数学「数と式」の各単元の計算問題を難易度順に配列した学習到達度診断シートであり、以下のような流れで取組を進めることにより、児童生徒のつまずきの把握とともに、知識・技能の定着を図ることができる。

- (1) 学習到達度を見取る。



「未来への一步」は、問題を難易度順に配列しているため、単元のどの段階（レベル）でつまずいているかが把握できます。



【小1～中3までの全学年対応！】

<例：第4学年「未来への一步」>

<p>小学4年【算数】 学習到達度診断シート 問題</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>問</th> <th>問題</th> <th>答え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>$360 \div 60$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$6 \overline{)84}$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$5 \overline{)78}$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$3 \overline{)83}$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>$4 \overline{)83}$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>$6 \overline{)851}$</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	問	問題	答え	1	$360 \div 60$		2	$6 \overline{)84}$		3	$5 \overline{)78}$		4	$3 \overline{)83}$		5	$4 \overline{)83}$		6	$6 \overline{)851}$		<table border="1"> <thead> <tr> <th>問</th> <th>問題</th> <th>答え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>$360 \div 60$</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$6 \overline{)84}$</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$6 \overline{)78}$</td> <td>13 あまり4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$3 \overline{)83}$</td> <td>27 あまり2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>$4 \overline{)83}$</td> <td>20 あまり3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>$6 \overline{)851}$</td> <td>141 あまり5</td> </tr> </tbody> </table>	問	問題	答え	1	$360 \div 60$	6	2	$6 \overline{)84}$	14	3	$6 \overline{)78}$	13 あまり4	4	$3 \overline{)83}$	27 あまり2	5	$4 \overline{)83}$	20 あまり3	6	$6 \overline{)851}$	141 あまり5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>問</th> <th>問題</th> <th>特長</th> <th>解決の手順</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>$360 \div 60$</td> <td>1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。</td> <td>1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>$6 \overline{)84}$</td> <td>1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。</td> <td>1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>$5 \overline{)78}$</td> <td>1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。</td> <td>1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>$3 \overline{)83}$</td> <td>1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。</td> <td>1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>$4 \overline{)83}$</td> <td>1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。</td> <td>1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>$6 \overline{)851}$</td> <td>1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。</td> <td>1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。</td> </tr> </tbody> </table>	問	問題	特長	解決の手順	1	$360 \div 60$	1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。	1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。	2	$6 \overline{)84}$	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。	3	$5 \overline{)78}$	1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。	1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。	4	$3 \overline{)83}$	1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。	1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。	5	$4 \overline{)83}$	1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。	1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。	6	$6 \overline{)851}$	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。
問	問題	答え																																																																							
1	$360 \div 60$																																																																								
2	$6 \overline{)84}$																																																																								
3	$5 \overline{)78}$																																																																								
4	$3 \overline{)83}$																																																																								
5	$4 \overline{)83}$																																																																								
6	$6 \overline{)851}$																																																																								
問	問題	答え																																																																							
1	$360 \div 60$	6																																																																							
2	$6 \overline{)84}$	14																																																																							
3	$6 \overline{)78}$	13 あまり4																																																																							
4	$3 \overline{)83}$	27 あまり2																																																																							
5	$4 \overline{)83}$	20 あまり3																																																																							
6	$6 \overline{)851}$	141 あまり5																																																																							
問	問題	特長	解決の手順																																																																						
1	$360 \div 60$	1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。	1. 割る数と割られる数の関係から、60がいくつあるかを考える。 2. 60が6回あるから、答えは6である。																																																																						
2	$6 \overline{)84}$	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が14回あるから、答えは14である。																																																																						
3	$5 \overline{)78}$	1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。	1. 5がいくつあるかを考える。 2. 5が15回あるから、答えは15である。																																																																						
4	$3 \overline{)83}$	1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。	1. 3がいくつあるかを考える。 2. 3が27回あるから、答えは27である。																																																																						
5	$4 \overline{)83}$	1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。	1. 4がいくつあるかを考える。 2. 4が20回あるから、答えは20である。																																																																						
6	$6 \overline{)851}$	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。	1. 6がいくつあるかを考える。 2. 6が141回あるから、答えは141である。																																																																						

【表紙】

【問題】

【解答】

【解決の手順】

(2) 理解が不十分な点を中心に指導する。



つまずきの段階に応じた習熟度別授業や個別指導等を行って、学習内容の定着を図りましょう。

(2)
$$\begin{array}{r} 28 \\ +14 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 28 \\ +14 \\ \hline 32 \end{array}$$

2
$$\begin{array}{r} 28 \\ +14 \\ \hline \end{array}$$

2けた+2けたのたし算のひっ算
※一の位に繰り上がりあり

- ① 一の位は $8+4=12$ 。十の位に1繰り上げる。
- ② 十の位は、 $2+1=3$ 。繰り上げ1と合わせて、 $3+1=4$ 。

全ての問題に「解決の手順」を示しています！



間違えた問題は「解決の手順」を見ながら自分で解き直してみましよう。



「解決の手順」を見ると、繰り上がりがあるひっ算の解き方がわかったぞ！

(3) 「未来への一步 (その2・Vol2) ※」を使って、知識・技能の定着を図る。



「未来への一步 (その2・vol2)」を「朝や帰りの活動」や「家庭学習」等で活用して、さらに児童生徒の知識・技能の定着を図りましょう。



【取組の進め方 (例)】



Ⅱ 学習支援用動画コンテンツ「Step to the Future」

1 内容等

〔算数・数学〕

「Step to the Future～10分の学び（テスト）～」(算数・数学編)

- 対象学年：小学校第1学年～中学校第3学年
- 内 容：算数科と数学科において、各学年が年度当初に学習する1単元分

〔中学校 外国語〕

「Step to the Future～Mentai English Fukuoka～」(中学校 外国語編)

- 対象学年：中学校第1学年～中学校第3学年
- 内 容：中学校 外国語における主な言語材料を取り扱った言語活動

※ 動画1本分は、1回の授業内容を10分程度に凝縮している。

2 動画コンテンツの活用方法例

【例1：授業の導入や予習として、本時の動画を視聴し、課題意識を明確にする】



児童生徒が動画を視聴し、教科書を見て「よくわからないこと」に印をつけたり、ノートにメモを取ったりした内容を中心に指導しましょう。



動画は、1単位時間の授業で学習する内容を10分程度にまとめているため、効率的に学習内容を理解させることができます。指導後は、多くの類題に取り組みせ、知識・技能の定着を図る時間を確保することも期待できます。

【例2：習熟度別少人数授業において、つまずきの多い学習内容を重点的に学び直す】



児童生徒のつまずきを把握し、その学習内容について配当時間を増加させるなどして、重点的な指導を行いましょう。



既習の学習内容でつまずいている児童生徒が多いことが明らかな場合は、つまずきに該当する動画を再度視聴させることで、学び直しを図ることができます。

動画コンテンツを様々な場面で活用する

個人の家学習等で
学校の放課後学習等で

予習で



次時に学習する内容を視聴させ、わかったこと、わからなかったことをノートに記入させておくことで、課題意識をもって授業に参加させることができます。

復習で



本時の学習内容の類題(副教材のドリル等で可)を宿題として課すとともに、動画を視聴させることで、より知識・技能の定着を図ることができます。

研修で



若年教員研修において、動画コンテンツを活用した授業研修を実施することで、よきモデルとしての基礎的・基本的な授業展開等について学ぶことができます。

また、英語動画「MENTAI ENGLISH FUKUOKA」では、4技能を統合した学習活動の具体について、効果的・効率的に学ぶことができるので、校内の教科部会だけでなく、教科等研究会の研修でも役立ちます。

教師の指導力向上
にも役立ちます！





家庭学習サポート情報 ③ 10分の学び(10min. study: テンスタ)

<動画コンテンツ「算数・数学」編>



～ Step to the Future ～

各家庭等での学習（「算数・数学」）を支援する動画コンテンツ
「Step to the Future」を活用して学習してみよう！

各種検索エンジンで
「福岡県 義務教育課」



検索

ふくおかけん ぎむきょういくか
福岡県 義務教育課

YouTube で **クリック!**



検索

ふくおかけんがくしゅうしえんどうが
福岡県学習支援動画チャンネル

「福岡県学習支援動画チャンネル」

と検索してみよう！

福岡県学習支援動画チャンネル
(小学1年生～中学3年生)

Step to the Future

～10分の学び(テンスタ)～



小学1年生



「かずとすうじ」

10までのかずについて、まなびます(ぜんぶで10回)。

小学2年生



「時こくと時間」 「たし算とひき算」

時こくのいいかたや、たし算とひき算について学びます(ぜん7回)

小学3年生



「わり算」

同じ数ずつ分けることについて学びます(全9回)。

小学4年生



「わり算」

1けたでわるわり算の筆算について学びます(全8回)。

小学5年生



「体積」

直方体や立方体などの体積について学びます(全7回)。

小学6年生



「対称な図形」

線対称や点対称など、対称な図形について学びます(全9回)。

中学1年生



「正の数・負の数」

0より小さい数(負の数)などについて学びます(全20回)。

中学2年生



「文字式の計算」

文字式の計算について学びます(全12回)。

中学3年生



「式の展開と因数分解」

文字式の計算についてさらに詳しく学びます(全18回)。

【今後の方向性】

『日常的・組織的な授業改善』による学力向上

「目標と指導と評価の一体化」の実現

- 各教科等で育成を目指す資質・能力を踏まえた「主眼」「めあて」「まとめ」「振り返り」の明確化
- 新しい学習評価に対応した評価規準に基づき指導と評価の充実
- 児童生徒による授業評価の実施と活用
- 高校入試問題を活用した授業づくりの推進

【学力向上推進拠点校指定事業】
 【学力向上推進強化市町村指定事業】
 【授業チャェックリスト】 【「未来への架け橋」】

思考力・判断力・表現力等の育成

- 「書くこと(問題発見、問題解決、振り返り)」を重視した授業改善
- 各教科等の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実
- 学力調査結果を踏まえた「指導資料」の活用
- 活用力を見取る定期考査問題の作成

【「主体的・対話的で深い学び」授業実践講座】
 【学力調査結果を踏まえた指導資料】
 【学力向上推進拠点校指定事業】

ICTの効果的な活用

- 教員のICT機器操作技術及び活用力の育成
- 児童生徒のICT機器操作技術(タイピングスキル等)の育成
- ICTを活用した授業研修の充実
- 効果的活用を図るための推進体制づくり

【ICT活用指導力に応じた教員研修】
 【学力向上推進拠点校指定事業】
 【重点課題研究指定・委嘱事業】

授業づくり

人材育成

学校の中核となるミドル・リーダーの育成

- 中核となる教員のキャリア・マネジメント力の育成
- 専門性を備えた教科指導リーダーの育成
- ミドルリーダー育成のための意図的・計画的な校務分掌の位置付け

【福岡県地区間交流研修】【コア・リーダー指導力向上講座】【学力向上推進拠点校指定事業】

授業実践力のある若年教員の育成

- 授業チャェックリスト等を活用した計画的な指導力向上
- 管理職等による意図的・計画的な教室訪問と校内OJTの充実

【ふくおか若年教員育成事業】 【クラスター非常勤講師派遣事業】

マネジメント

管理職のリーダーシップによる学校マネジメントの充実

- 教育課程の編成、実施、評価の適切な管理
- 9年間の系統性を踏まえた学力向上プランに基づく検証改善サイクルの確立

【教育課程実施状況調査】【学力向上検証改善実態調査】【管理職研修】
 【福岡県地区間交流研修】【学力向上プラン】

小中一貫した学習の基盤づくりの充実

- 中学校区で一貫した学習・生活指導の徹底
- 非認知的能力を育成する取組の充実

【「未来への一歩」】 【「鍛ほめ福岡メソッド」】 【学力向上プラン】

